

総括評価表

重点課題 1

「学習指導の改善と確かな学力の向上」
*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価				学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価		
(全体レベル) 読解力を育む授業を行い、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等、確かな学力の向上を図る。 (下位組織レベル) ①基礎学力、受験学力の向上 ②家庭学習の習慣化と家庭との連携 ③教科指導力の向上と授業の質的転換 ④読書習慣の定着化、読書内容の向上 ⑤進路意識の高揚	評価指標 ①進研模試3教科 1年7月→2年11月 過回対比偏差値45.0以上の人数比較 70%以上 (70.0%目標→98.4%) ②1日の平均学習時間 1.0 時間未満の生徒数 60人以下(60人以下目標→141人) 学年別進路保護者会出席率 55%以上 (55%目標→54.6%) ③生徒による授業評価「理解が深まっている」 生徒割合 85%以上(85%目標→90.6%) 「興味・関心が高まっている」生徒80%以上 (80%目標→82.9%) ④図書貸出冊数一人 6冊以上 (7.5冊以上目標→3.16冊) 生徒一人あたりの入館回数 7回以上 (10回以上目標→6.22回) ⑤進路に対する高い意欲を有する生徒の割合 85%以上 (85%目標→84.8%) 進路決定率 100%(100%目標→98.1%)	①進研模試3教科 1年7月→2年11月 過回対比偏差値45.0以上の人数比較 121.1% ②1日の平均学習時間 1.0 時間未満の生徒数 116人 学年別進路保護者会出席率 54.0% (3学年 80/140人、2学年 77/152人、1学年 72/130人) ③生徒による授業評価 「理解が深まっている」 87.5% 「興味・関心が高まっている」 78.8% ④図書貸出冊数一人 3.65冊 生徒一人あたりの入館回数 6.86回 ⑤進路に対する高い意欲を有する生徒の割合 87.0% 進路決定率 % (3月末までに記入)	評定 A C B B A	総合評価 評定 B B	総合評価(評定) B	
	活動計画 ①-1 課題解決への自主性確保(宿題との相違性)の効果的な実施(総括) ①-2 補習や個別指導の効果的な実施と学習環境整備(総括) ①-3 基礎的・基本的知識等の定着(総括)	活動計画の実施状況 ①-1 各学年とも定期的に課題を出すことで、少しでも学習に取り組めるよう工夫している。外部教材の希望を取ったが、自主的に取り組める生徒はほぼいなかった。 ①-2 早朝、夏季、冬季(3年のみ)の補習を計画的に行った。個別指導も生徒の要望をくみ取りながら組織的に行った。また放課後、自主学習室と教室とに分かれて、3年生はしっかり学習に取り組めた。自主学習室については、2年生の利用もあった。 ①-3 1学期中間考査後から1年生が「日々題」を始めるなど、各学年で知識の定着のためにプリント等を準備・回収をした。	所見 学校評価アンケートでは、夏季補習については力が上がったと思うと答えた生徒の割合が上昇しており、模擬試験の結果に反映していると思われる。希望者を増やしたり内容を改善したりするために、生徒へのアンケートはかなり有効だと考える。 個別指導の一環で、特に3年生では英単語を覚えるためのスタンプラリーが共通テストでの英語の平均点上昇につながったと推測できる。しかし、個別指導は物理的に多くの時間を必要とするため、効果的な連携とA1の利用で、生徒に伴走しながらも先生方の働き方改革にも考慮することが重要である。 一方情報提供においては余り早くできたとは言えない	学校関係者の意見 早期、夏季、冬季の補習を計画的に行い、成果を上げており高く評価できる。基礎的・基本的知識・技術の習得にはA1などを積極的に活用して学力の向上と課題解決に努めていただきたい。「自主的に取り組める仕掛け(課題設計・振り返り・見える化)」と、保護者会等による家庭連携の改善(出席率の微改善含む)を重点に、学習の“自走”を増やす取り組みが望まれる。 1日の平均学習時間については、時期によりムラがあるための結果なのかなと思った。「家庭学習=孤獨な時間」というイメージを払拭し、先生や保護者が伴走していきけるような環境体制づくりや学習の「個別最適化」の支援などにより、家庭学習時間の確保につながれば良い。	①-1 個別最適化の観点から希望者は募る予定。 ①-2 継続実施。 ①-3 各学年と連携して目標の明確化と見える化を図る。	
	②-1 学習時間記録の効果的な活用(総括) ②-2 復習を前提とした授業展開の工夫(総括) ②-3 課題の効果的な提供(総括) ②-4 学年別進路保護者会での効果的な情報提供(総括、総括)	②-1 「生活実態調査」で年3回学習時間を調べている。 ②-2 前時の学習内容を伝えながら次の授業を行うようにした。 ②-3 その日のうちにできる量考えた「日々題」を提供した。 ②-4 参加してくださった保護者には、入試制度や進学に必要なお金の話や「高校卒業後に就職するとは」についての話を伝えられた。		①-1 生活実態調査の実施時期を再考。 ②-2 継続実施。 ②-3 各教科や学年で見据えて再考してもらう。 ②-4 時期と内容を見直しを再考する。	②-1 「生活実態調査」の実施時期を再考。 ②-2 継続実施。 ②-3 各教科や学年で見据えて再考してもらう。 ②-4 時期と内容を見直しを再考する。	
	③-1 授業公開、研究授業の活性化(教務、企画総括) ③-2 生徒による授業評価の工夫(総括、企画総括) ③-3 カリキュラムマネジメントが機能している授業展開(総括)	③-1 同じ教科だけでなく他教科の授業からも、授業改善のヒントを得たり、生徒の違った様子を観察できたりした。 ③-2 教科ごとの振り返りアンケートを可能な限り実施し、来年度の授業へとつなげる予定である。 ③-3 授業の満足度が学力へとつながっているのではと、今年度と昨年度の模試の結果等から推測できる。		③-1 研究授業の活性化や生徒による授業評価、課題の提供や個別指導など、様々な視点から多くの工夫をし、学力向上を図っていることが感じられる。 ③-2 新聞読み隊の開催やmini図書館など魅力ある図書館づくりに取り組んでいる。	③継続実施。 ④3年生を中心に進路に向けた読書ができるような取	
	④-1 魅力ある図書館づくり(情報・図書) ④-2 学習と読書の関連性強化(情報・図書、教員)	④-1 新聞読み隊の開催や、2階渡り廊下でのmini図書館など、図書館・読書に親しめるような活動を行った。 ④-2 国語科や総合的な探究の時間と連携し、図書館の利用促進を図				④3年生を中心に進路に向けた読書ができるような取

	<p>⑤-1 進路情報の取集と効果的な提供(麟)</p> <p>⑤-2 進路ガイダンス及び進路保護者会(説明会、講演会等)の充実(麟)</p> <p>⑤-3 就職希望生徒への指導の強化(麟)</p>	<p>った。授業での利用だけではなく、放課後に自主学習として図書館に訪れる生徒もいた。受験期にある3年生は、教員の助言を受けて、進路研究や小論文対策のために多くの図書を活用していた。</p> <p>⑤-1 先生方だけでなく生徒にも、必要な情報提供ができるよう善処した。特に生徒には担任や教科担任を通じて、さまざまな課外活動やオープンキャンパス、進路ガイダンスの案内をした。</p> <p>⑤-2 12/12 1・2年生対象の進路ガイダンスでは、オンラインも含め国立大学を多くし、学問内容について情報を得た。学年別進路保護者会では、進学費用や入試の仕組みについて伝えられた。</p> <p>⑤-3 進路ガイダンスの際には、就職希望生対象の講座を開催した。3年生へは履歴書作成や面接練習を通して、社会人としての基本的な能力を培った。</p>	<p>い。ホームページの更新も含め、来年度にむけて改善したい。</p>	<p>「自主的に取り組める任(挿け(課題設計・振り返り・見える化)」と、保護者会等による家庭連携の改善(出席率の微改善含む)を重点に、学習の“自走”を増やす取り組みが望まれる。</p>	<p>組を行う。</p> <p>⑤さまざまな背景の保護者がいることを前提に、より丁寧な情報提供を心がける。</p>
--	---	--	-------------------------------------	--	---

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点課題 2

「支えあう仲間づくりと人権教育の推進」

* 「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価	評価	学校関係者評価	今後の改善方針	
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価		
<p>(全体レベル)</p> <p>学校教育全体の中で、差別を見逃さない人権感覚と、自他を大切にすることを育み、人権尊重の精神の涵養を図る。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①人権が尊重される人間関係づくり、仲間づくり</p> <p>②人権学習、啓発活動の充実</p> <p>③教職員研修の充実</p> <p>④家庭や関係諸機関等との積極的な連携</p> <p>⑤特別支援教育の充実</p>	<p>評価指標</p> <p>①人権学習ホームルーム活動満足度90%以上(90%以上目標→90.6%)</p> <p>②人権の日及び人権学習ホームルーム活動等で扱う個人人権課題 10課題以上(10課題以上目標→15課題)</p> <p>③校外研究天会または校内研修参加回数 全職員2回以上(全職員2回以上→全職員2回以上)</p> <p>④保護者への啓発活動及び地域との連携活動 年6回以上(新規)</p> <p>⑤特別支援教育相談活動に係わる職員の満足度 90%以上(90%以上目標→93.4%)</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 落ち着いた学習できる環境作りの促進(麟)</p> <p>①-2 生活実態調査の実施や個人面談等でいじめの実態の把握および対応(麟、生麟)</p> <p>②-1 個人人権課題「同和問題」ホームルーム活動の計画的・継続的な実施(麟)</p> <p>②-2 人権教育講演会、人権問題意見発表会及び人権問題啓発映画会の実施(麟)</p> <p>②-3 生徒の主体的な啓発(交流)活動の企画・実施、成果等の発信(麟)</p>	<p>①人権学習ホームルーム活動満足度 91.8%</p> <p>②人権の日及び人権学習ホームルーム活動等で扱う個人人権課題 15課題(重複した課題を除く)</p> <p>人権の日では、外国人労働者の人権、表現・言論・報道の自由、アイヌの人々、女性差別、インターネットでの誹謗中傷、バリアフリー、外国人差別、外国にルーツを持つ人たちへの理解、ジェンダーレス、ホロコースト、いじめ防止対策推進法、被差別部落についての人権侵害投稿などの人権課題を、人権委員が主体的に取り上げ、全生徒に対して啓発した。</p> <p>人権学習ホームルーム活動では、同和問題(就職差別・結婚差別・被差別部落の歴史)、災害時の人権、SNSと人権、デートDV、アイヌの人々、高齢者などの人権課題を取り上げた。</p> <p>③校外研究天会または校内研修(地域研修含む)参加回数 全職員2回以上</p> <p>全職員参加の人権教育講演会、人権問題啓発映画会(3/19予定)を実施した。また、本校生徒による人権問題意見発表会も貴重な研修機会となった。</p> <p>④保護者への啓発活動及び地域との連携活動 年6回</p> <p>入学式当日、PTA役員会(2回)、PTA総会、阿波高祭において保護者への啓発活動を行い、柿原ふれあい会館祭に参加した。</p> <p>⑤特別支援教育相談活動に係わる職員の満足度 97%</p>	<p>評定</p> <p>B</p> <p>総合評価</p> <p>評定</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>総合評価(評定)</p> <p>A</p>	
		活動計画の実施状況	所見	学校関係者の意見	
		<p>①-1 多様性を尊重し、支え合う仲間づくりを推進した。</p> <p>①-2 生活実態調査や教員による観察、生徒からの申し出などから、生徒が抱える悩みを丁寧に聞き取り、声かけを行った。</p> <p>②-1 1年生では、中学校までに学習してきたことと結びつけて同和問題について学習した。3年生では、就職差別・結婚差別とも、同和問題をはじめさまざまな視点から差別を見抜く視点を学習した。</p> <p>②-2 人権教育講演会(6/17「18歳のビッグバン 見えない障がいから社会の扉を叩く」小林 春彦氏)、人権問題意見発表会(10/28「戦争と人権」「戦争と平和」「『ふつう』って多様性を受け入れること」「見えない想いと人権について考えたこと)、人権問題啓発映画会(3/19予定)を実施した。</p>	<p>人権教育講演会において、「見えない障がい」により社会生活を送る上で困難を抱えている人々について考えたことに対して、新たな視点が得られたとの感想が多く寄せられた。</p> <p>今年度は本校が</p>	<p>さまざまな人権課題に取り組む生徒たちに主体性があり、中学校から高めてきた意識を高校で自己開示できる機会があるのがあるが、中学校でも行っているが、高校でのこのような取組がありたい。</p> <p>また、人権学習ホームルーム活動でも、デートDV、災害時の人権などを学んでいるが、さまざまな視点をもつことが重要だと感じた。</p>	<p>①教員による生徒への働きかけを深める。</p> <p>②生徒の実態を把握することに努めて、それに合わせた主題の設定を継続する。</p>

	<p>②-3 人権委員が主体的に取り上げた人権課題について、人権の日には全生徒に啓発し、阿波高祭じんけん展では、その成果を全生徒・全来校者に発信した。また、じんけん同好会の生徒が「中・高生等による人権交流事業」に計9回参加し、他校の中・高生と数多く交流した。</p> <p>③-1 指導方法の工夫・改善を図る研修会の実施(人権)</p> <p>③-2 各種研究大会、講演会への積極的な参加と報告(人権)</p> <p>③-3 生徒と学ぶ研修会の実施(人権)</p> <p>③-4 地域との連携(人権)</p> <p>④-1 保護者への啓発活動の実施(人権)</p> <p>④-2 地域との連携(人権)</p> <p>⑤-1 特別支援体制の確立(教育相談)</p> <p>⑤-2 相談活動及び専門機関等へのコーディネイト(教育相談)</p> <p>⑤-3 教職員の生徒理解、支援能力の向上(教育相談)</p>	<p>②-1 人権学習ホームルーム活動の実施前に、学年研修会、研究授業や研究協議を実施して、活発な意見交換を行った。</p> <p>③-2 県人研大会・高特人研大会・市人研大会に複数の教員が参加し、四人研大会には人権教育主事が参加した。</p> <p>③-3 2年生対象のデートDV防止セミナー(11/11 柳谷 和美氏)は、教員が生徒とともに学ぶ貴重な機会となった。</p> <p>③-4 新採用・転入者対象研修会を柿原ふれあい会館で実施し、地域の方から地域の歴史についてお話を伺った。</p> <p>④-1 P T A役員会(2回) P T A総会・阿波高祭において、また、入学式直後に新入生保護者に対して、啓発活動を実施した。</p> <p>④-2 柿原ふれあい会館祭に、有志の生徒5人と人権教育主事が参加し、運営の一端を担い、地域との連携を深めた。</p> <p>⑤-1 担任、学年、保健室、教育相談担当が得た情報を共有し、必要に応じて関係者会を開くなど、支援体制の確立に努めた。</p> <p>⑤-2 来校するスクールカウンセラーの相談活動を周知するとともに、ライフサポーター派遣やLINE相談、電話相談、大学の相談室の案内を行った。</p> <p>⑤-3 適切な配慮や支援方法についての助言・援助を、必要に応じてスクールカウンセラーから教職員が受けることで、生徒理解、支援能力の向上に努めた。</p>	<p>「中・高生等による人権交流事業」西部ブロック事務局であったが、本校じんけん同好会の生徒が、西部ブロックだけでなく、県全体の役員も自ら進んで引き受け、ほぼ毎回交流会に参加したことは、今年度の大きな成果であった。</p> <p>特別支援や教育相談については、スクールカウンセラーの配置により、生徒・保護者・教職員の相談・解決がスムーズに行われた。</p> <p>校内はもちろん、関係機関との連携を一層高めたい。</p>	<p>「中・高生等による人権交流事業」では、先輩である高校生の言動に憧れ、目標としている中学生がいる。「あの先輩がいる高校に行きたい」と進路の決定につながる場面を何度も見てきた。</p> <p>自己肯定感とは自分や他の人を大切にできる心の源である。また、当事者意識・多角的な見方などが大切だと感じる。阿波高校は、生徒が安心して発言できるようなクラスの雰囲気にしていくと感じる。生徒会活動や声かけで配慮されていると聞いている。差別を許さない、人権への毅然とした態度を育てていただけたらと思う。</p> <p>自己肯定感とはものすごく大事である。また、地域との連携はすばらしいので、ぜひ続けていただきたい。</p>	<p>③教員の知識の更新に資する研修を引き続き取り入れる。</p> <p>④保護者への啓発方法を工夫し、啓発回数をさらに増やす。</p> <p>⑤校内はもちろん、関係機関との連携を一層深める。</p>
--	---	--	--	---	--

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点課題 3

「自己実現と社会貢献意識を高めるキャリア教育の推進」

* 「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定	総合評価	
(全体レベル) 自己の価値観を形成させながら進むべき道を描けるようにさせるとともに、地域社会に貢献しようとする意欲を高める。 (下位組織レベル) ①「キャリア・パスポート」を核としたキャリア教育のプログラムの充実 ②地元自治体や企業と連携した「地域探究活動」の推進 ③主権者意識を高める教育の推進	評価指標 ①スクール・ポリシーを基にした、キャリア教育における基礎的・汎用的能力に関する4つの能力について、肯定的回答が75%以上(75%以上→75.9%) ②社会的課題に主体的に向き合い、社会に貢献しようとする意欲について、肯定的回答が90%以上(85%以上→88.8%) ③主権者教育に関する活動をとおして、「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒が95%以上(90%以上→97.8%)	平均 76.6 (75.9) % ※ () 昨年度 ①・自主的に調べ物や取材を行い、興味・関心のあるものを見つけたことができた。・・・72.7 (71.0) % ・自分が設定した目標に対して、計画を立てて行動することができた。・・・59.1 (59.5) % ・自分とは異なる意見や価値を尊重することができた。・・・92.1 (92.9) % ・自分の将来についての見通し(将来こういう風でありたい)を持っている。・・・82.5 (80.5) % ②「総合的な探究の時間」等のキャリア教育に意欲的に取り組むことができた。・・・87.0 (88.8) % ③政治への関心が高まった生徒は95.0 (97.8) %で目標を達成することができた。	A	A	①生徒が自らの成長や社会との関係を実感できる活動を展開するとともに、キャリア・進路実現につながるカリキュラムの改善に努める。 ②探究活動の連携先を拡充し、活動を実践する場や地域人材との一層の連携の充実および組織化を図る。 ①-1 継続実施。 ①-2 継続実施。
	活動計画 ①-1 「キャリア・パスポート」に関する内容の授業時間数を年間6時間とする(AWA未来創造) ①-2 大学や企業との連携をはかり、アカデミックインターンシップを実施する(総採)	活動計画の実施状況 ①-1 ホームルーム活動や「総合的な探究の時間」に設定し、予定どおり実施した。 ①-2 未来の特別支援教育を担う人材の育成を期した「マナビ☆アカデミア」、徳島大学主催遠伝子組み換え実験や徳島県立総合教育センター主催「科学への誘い」等、県内外の大学や教育機関が主催する講義やワークショップ等へ多くの生徒が参加した。また、今年も本校学校運営協議会委員の井原まゆみ様や妹尾裕介様によるキャリア教育講演会等を実施し、地域づくりを現場で実践なさっている方々の熱意を通して、学びへの意欲を高めることができた。	所見 2年生の「総合的な探究の時間」では、引き続き阿波市・上板町との連携を図り、また法人や地域の活動家の方とも連携を図りながら取り組んだ。特に「外部	学校関係者の意見 2年生による「総合的な探究の時間」はいつも素晴らしいなと思いながら、拝見させていただいている。主権者教育との連携を図るなど、非常に評価できると感じている。今後も継続してほしいと思う。	

<p>② 地元自治体や企業、NPOとの連携を推進し、課題研究の取組の発展をはかる（総探）</p>	<p>②「総合的な探究の時間」において、コワーキングスペース「awake!」様の全面的なご協力のもと「外部メンター制」を導入できたことが本年度の最大の収穫であった。教員だけでなく、地域で精力的に活動する大人から定期的に啓発・触発される経験が、地域課題探究活動の何よりの起点・原動力となるものであった。おかげをもって、地域の企業様とのコラボレーションは昨年度よりも店舗数も活動のバリエーションも大幅に増加した。また、阿波市・上板町の小学校等での活動に加え、阿波市役所の職員による講義を今年も実施するなど、阿波市・上板町との連携を推進し、課題研究の取組の発展を図ることができた。NPO法人あわ・みらい創生社、コワーキングスペース「awake!」、大塚製菓等、地元の法人のご指導の下で、今年度も地域課題探究活動の大幅な伸長を図ることができた。</p>	<p>メンター制」による継続的な指導・助言体制の整備は活動の飛躍的な充実につながったと思われる。今後は、その持続可能な条件整備や、実践内容を学術的な考察や研究へつなぐ仕組みづくりが課題である。主権者教育を積極的に行うことで、地域社会の一員であるとの自覚も高まり、投票等への動機付けにつながった。</p>	<p>スクール・ポリシーに基づく基礎的・汎用的能力に関する肯定的回答が基準を満たし、将来についての見通しや価値観形成に関する項目も概ね良好で、全体として高い到達が見られる。「総合的な探究の時間」への意欲は一部伸びしろがあるが、主権者教育では政治・選挙への関心向上が目標を達成しており、社会参加の芽を育てる成果が確認できる。特に、外部連携（講演会・地域探究）を通じて学びの意欲を高めた点は大きな強みであり、地域との接続がキャリア形成に直結している。次年度は、この連携を“持続可能な条件整備”として制度化し、実践の蓄積を学術的な考察・研究へつなぐ評価設計（振り返り、探究成果の可視化、発表機会）を強めることで、自己実現と社会貢献を両立する学びをさらに深化させたい。</p>	<p>② 研究テーマの継続研究を実施するための学年間連携に取り組むとともに、外部メンター制度の持続可能な運用を実施する。</p>
<p>③-1 主権者教育教職員研修会の実施(公民科) ③-2 主権者教育に関する学校行事やホームルーム活動を年間8回実施(公民科) ③-3 全体計画を作成し、その実施において教科、領域間の連携をはかる(全教員)</p>	<p>③-1 4月7日に予定通り実施した。 ③-2 2年生全員を対象に12月16日に選挙スクールを実施した。2年生の「総合的な探究の時間」でも、主権者として地域の課題について考え、行動する取り組みを年間を通して8回以上実施した。 ③-3 全体計画を作成することで、主権者教育における学校全体の目標の明確化と教職員間における目標・計画の共通理解を行い、公民科や他教科、「総合的な探究の時間」等との連携をはかることができた。</p>	<p>主権者として、地域・国家を支え変革できる存在であることに気づき自覚をもってもらいたい。年8回以上の実施はよく取り組んでいたいていると思う。</p>	<p>③-1 継続実施。 ③-2、3 各課・各教科との連携の更なる深化を図る。</p>	

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点課題 4

「基本的生活習慣の確立と規範意識の育成」

*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		評価		学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定	総合評価		
(全体レベル) 生徒理解の深化と信頼関係を基盤に、生徒自らが現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力を育成する。安全・安心な学校生活と、違いを認め合える人間関係づくりを推進する。また、よりよい校風を築いていくために、学校のために何ができるかを考えさせる。	評価指標 ①自分から挨拶ができていく割合 90%以上 (90%以上→89%) 過失割合の高い交通事故発生件数 3件以下 (3件以下→2件) ヘルメットの着用率 25% ②担任との個別面談回数 3回以上 (3目標→3) スクールカウンセラーへの相談件数 50件以上 ③いじめの未然防止に関する生徒指導教職員研修の実施 2回 (2回→2回) いじめの認知件数に対する解消率 100%	①自分から挨拶ができていく割合 94% 過失割合の高い交通事故発生件数 1件 ヘルメットの着用率 9.4% ②教育相談週間実施数 3回 スクールカウンセラーへの相談件数 59件 ③いじめの未然防止に関する生徒指導教職員研修の実施1回 いじめの認知件数に対する解消率 100%	評定 B A A	総合評価 評定 A A	総合評価(評定) A	①ヘルメットの着用率を上げるため、今後も生徒・保護者への呼びかけを継続していく。 ③いじめの発見・対応を早期にできるよう、アンケートや面談を引き続き実施する。
	(下位組織レベル) ①社会的な自立に向けて、基本的な生活習慣の確立や、規範意識の向上を目指す教育を推進する。 ②教育相談体制の充実を図り、すべての生徒が安心して学校生活を送れる学校作りを推進する。 ③「学校いじめ基本方針」の点検・見直しを図り、組織的にいじめの未然防止に努める。	活動計画 ①-1 生徒指導全校集会の実施(主指) ①-2 生活改善週間の実施と改善指導の徹底(主指) ①-3 登下校指導や街頭指導の実施(主指) ①-4 自転車・バイク点検の実施と講習会の実施(主指) ①-5 警察・補導センター等関係諸機関との連携(主指) ②-1 保健室相談機能の有効活用(教育相談、養教) ②-2 情報の共有化と支援プランづくり(教育相談) ②-3 専門家による研修会の実施(教育相談) ②-4 面談週間の設定(教育相談) ②-5 スクールカウンセラーの派遣(教育相談) ③-1 いじめ防止委員会の設置(主指) ③-2 いじめに関する教職員研修の実施(主指)	活動計画の実施状況 ①-1 年6回リモートで生徒指導主事等による講話を行い、自己指導能力の育成に努めた。また、学年集会も各学期に実施した。 ①-2 各学期に1回、年間3回実施した。 ①-3 毎朝校門に教員が立ち、立哨指導を行った。また危険箇所には随時巡視を行い、交通安全の啓発を行った。また放課後には公園や神社などの巡視を実施し、校外でのマナーの徹底を行った。 ①-4 4月に生徒指導課でバイク、正副担任で自転車の点検およびステッカーの確認を行った。1学期末に第1・2学年を対象に交通安全講話を実施した。また、阿北自動車教習所で第2・3学年を対象に原付安全実技講習会を実施した。プレーキング、バランス走行を行い、指導助言を受けた。また交差点事故の実技検証を実施し個々のケースに学んだ。 ①-5 生指協等を通して阿波吉野川警察署、補導センターと定期的に情報交換し、内容を職員朝礼等で職員に連絡した。また問題行動の対応についても連携を図り、助言を指導へ生かした。 ②-1 養護教諭が生徒の悩みを聴き、本人が希望する支援につなぐことができるように、担任や学年主任、教科担任と保護者との連携を生かした。 ②-2 「支援を要する生徒」について、必要に応じて関係者会を開催し情報交換を行った。また、鴨島支援学校の巡回相談員の方に授業を見ていただき、専門的な支援の方向性を検討した。 ②-3 3学期始めに、12月に課員が参加した発達障がい研修会の概要資料を配付し、職員会議後に研修を行った。なお、3月19日に映画鑑賞による研修を実施予定である。 ②-4 年間3回教育相談週間を設定した。 ②-5 徳島県スクールカウンセラー等活用事業の配置により、スクールカウンセラーが年間90時間来校した。心理的な要因等により登校できない生徒や、保護者へのカウンセリング、支援方法についての指導助言を得た。相談活動について、保護者、生徒宛にカウンセラー便りを各学期にて配布した。 ③-1 阿波高版いじめ防止委員会のALP(S)(A-Leaders Project Society)による活動を行い、生徒の想像力を活かしたアイデアをもとに、全校生徒を巻き込んだ活動を展開した。 ③-2 生徒指導関連の研修内容を報告したり、校内で発生した事案について研修したり、全教職員で研修に努めることができた。また、令和7年2月に改訂された「徳島県いじめ防止等のための基本的な方針」をもとに、学校いじめ防止基本方針を改訂し、職員会議で全職員に周知した。	所見 本校生徒は、真面目な生徒が多く問題となる行動などは非常に少ない。ただ、大人しく人とのコミュニケーションをうまくとれない生徒も少なくはない。生徒との面談だけでなく、授業中の些細な行動・言動にも留意し、配慮していきたい。 昨年度から相談件数が減少しており、スクールカウンセラー便りをはじめ、より徹底した周知を今後行いたい。生徒や保護者が抱える問題の早期解決に学校全体で対応できる情報共有の必要性を感じた。	学校関係者の意見 挨拶の実施率や交通事故発生件数の抑制、教育相談週間の複数回実施、スクールカウンセラー相談件数の確保など、生活指導・相談体制は一定程度機能していると評価できる。 いじめについても研修実施・解消率100%が示され、組織的対応の姿勢は明確である。一方で、ヘルメット着用率が目標を大きく下回っており、規範意識を“行動”に落とす指導を強化する必要がある。また、コミュニケーションが苦手な生徒への日常的な観察と配慮、授業中の些細な変化を拾う視点が重要となる。	①-1～5について、継続して実施する。 ②-1～5について、継続して実施する。 ③-1～2について、継続して実施する。

*「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点課題 5

「特別活動の活性化と豊かな人間性の育成」

*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		評価		学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル) 諸活動の活性化を図るとともに、豊かな人間性を育み、主体的に取り組む意欲と実践力を高めるための機会の確保に努める。	①生徒のHR活動満足度 88% (85%目標→85%) 生徒の学校行事満足度 92% (85%目標→91%) 新企画数 3以上 (3目標→3)	①生徒のHR活動満足度 90% 生徒の学校行事満足度 94% 新企画数 4	A	A	A	教員の負担軽減を考慮した学校行事の企画・運営、部活動の組織改革を積極的に行う。
	②部活動加入率 75%以上 (85%目標→73%)	②部活動加入率 83%	A	A		
(下位組織レベル) ①生徒会の活性化 ②部活動の充実・活性化 ③学校行事(学校祭等)の活性化	③文化祭肯定評価 93%以上 (85%目標→92%)	③文化祭肯定評価 95%	A	A		
	活動計画	活動計画の実施状況	所見	学校関係者の意見		
	①-1 生徒による新しい活動の企画・運営(特活) ①-2 学校行事への主体的な参画(特活) ①-3 社会貢献活動への企画・実施及び参加(特活)	①-1 学校祭・体育祭・予餞会・生徒会で新しい企画を実施した。 ①-2 生徒会・各種委員会・部活動が阿波高祭・予餞会・球技大会の企画・準備・運営を行い主体的な役割を担った。 ①-3 校内外で様々なボランティア活動に多くの生徒が参加した。	HR活動や学校祭評価が予想以上に高かった。毎年、校内行事では生徒たちの積極的な取り組みに助けられているが、この良い校風を継続、発展できるようにしたいと思う。	生徒の満足度や肯定的な評価の割合が高く、日々の教育活動が、生徒のために実践されていると感じた。		①-1～3について、継続して実施する。
	②-1 顧問と生徒、保護者との良好な人間関係づくり(部活動顧問) ②-2 部活動顧問会議の開催と意見交換(部活動顧問) ②-3 管理職への報告・連絡・相談の徹底(部活動顧問) ②-4 部活動のスリム化(特活) ②-5 活動及び結果等の広報活動(部活動顧問)	②-1 生徒の主体的な活動を重視し、保護者の協力のもと活動した。 ②-2 4月と12月に部活動顧問会議・部活動適正化推進委員会を開催し、体罰禁止、熱中症対策、感染症対策の徹底を確認し、活動上の問題点等の情報交換を行った。 ②-3 活動中に発生した事故(怪我や熱中症等)について、適切な対応を行うとともに速やかに管理職に連絡した。また、事後の経過についても適切に報告を行った。 ②-4 今年度廃部1、来年度廃部1の予定。 ②-5 ホームページに大会結果や活動状況を掲載し、中学生体験入学で部活動体験や見学を通して活動紹介を実施した。		不適切な指導についての自己点検と意識改革が必要になっていると思う。気候の変化に伴う暑さ対策と活動時間帯の検討も必要である。教員の働き方改革とのバランスは大丈夫なのか気になった。		②-1～5について、継続して実施する。
	③ 生徒の主体的な活動支援(特活)	③ 生徒を中心に、新しい制服の検討委員会を実施している。		生徒の主体的な活動支援ができていない。		③について、継続して実施する。

*「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点課題 6

「環境教育の充実と安心・安全な学校づくりの推進」
*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		評価		学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価(評定)		
(全体レベル) 校内外の環境美化と、さまざまな課題解決学習を推進し、持続可能な開発目標(SDGs)の実現に寄与する実践力の育成を図る。 (下位組織レベル) ①衛生・美化意識の高揚 ②環境教育・消費者教育の推進 ③防災教育の充実 ④健康意識の高揚と啓発活動の充実 ⑤食育の推進	評価指標 ①清掃活動への積極的な取り組み 93%以上(90%以上目標→教職員による評価96.7% 生徒による自己評価93.3%) ②地域清掃活動の参加率 生徒人数の40%以上(新規) ③生徒の防災意識度 75%以上(75%以上目標→72.0%) ④生徒の朝食摂取率 93%以上(93%以上目標→91.7%) ⑤生徒の野菜摂取率 80%以上(80%以上目標→82.2%)	評価指標による達成度 ①清掃活動への積極的な取り組み 教職員による評価 94.0% 生徒による自己評価 95.5% ②地域清掃活動の平均参加率 50.5% ③生徒の防災意識度 76.3% ④生徒の朝食摂取率 93.6% ⑤生徒の野菜摂取率 91.6%	評定 B A B B A	総合評価 B	総合評価(評定) B		
	活動計画 ①-1 日常の清掃活動の徹底(競・駐) ①-2 教室等のゴミ分別の徹底(競・駐) ①-3 一斉大掃除の計画的実施(競・駐) ③-1 学校防災計画の作成と職員への周知(競・駐) ③-2 防災避難訓練等の効果的な実施(競・駐) ④-1 緊急時の対応に関する教職員研修の実施(競・駐) ④-2 厚生委員会活動の活性化(競・駐) ④-3 関係機関と連携した健康教育の実施(競・駐) ④-4 学校保健委員会の充実と結果の活用(競・駐)	活動計画の実施状況 ①-1 美化委員会で考えた清掃目標を2か月ごとにクラスに周知し、清掃への積極的な取り組みを呼び掛けた。 ①-2 美化委員による教室のゴミ分別評価表の記入や、環境委員によるペットボトルのキャップ回収など、生徒による環境美化の活動を続けている。回収したペットボトルは、地元の実業所との連携により、ワクチンの購入活動につなげている。また、資源ゴミとして集めた古紙と段ボールは、再生紙トイレットペーパーと交換し、校内で使用している。 ①-3 大掃除では、床拭きやゴミ箱洗いなどにも熱心に取り組んだ。 ②-1 5/22、10/6、12/11に地域の清掃活動を実施した。各回、美化委員、環境委員の他、個人または部活動単位で多くの生徒が参加した。 ②-2 消費者教育として、7/16に3年生が、徳島大正銀行の斉田友明氏による金融教育講座を受講した。闇バイトや銀行口座売買に関する犯罪についての話を聞き、金融に関する正しい知識を学んだ。エシカル消費教育では、1年生が身近な材料を用いて「阿波高オリジナル携帯myトイレ」を作成し、家庭用に持ち帰ったほか、学校祭の防災展で来校者に配布し、地域の防災啓発につなげた。 ③-1 学校防災計画を作成し、職員に周知した。 ③-2 5/11に、吉野地区の浸水被害を想定して、かきはら子ども園、柿原小学校との合同避難訓練を実施した。高校防災士と環境委員が園児や児童の迎えと広場への誘導を行い、3年生が校内への避難に付き添った。有事の避難行動への意識と実践力を高めることができた。 ④-1 5/16に教職員対象の緊急時対応訓練を実施した。生徒が教室で倒れた場面を設定し、役割に応じたシミュレーション訓練を行い、徳島中央広域連合中消防署員から指導助言を得た。 ④-2 厚生委員は毎月1回、保健だよりを教室に掲示する際にHRで内容の説明を行った。夏休み前には「わたしが作る朝ごはん」のメニューを考え掲示物を作成し、阿波高祭の保健展で展示した。また、厚生委員2名を含む生徒有志が熱中症予防の啓発動画を作成し、一学期の終業式後に全校生徒に向けて上映した。 ④-3 12/11に「徳島県外部講師を活用したがん教育事業」を行った。むつみホスピタル副院長・看護部長 郡利江氏による「生活習慣病とがん」、AWAがん対策基金理事 川崎陽二氏による「がん体験から伝えたいこと」、徳島大学医学部学生 藤本和真氏、石田祐也氏による「がんについてもうちょっと知ろう」と題した講義と、がん検診を勧めるメッセージカードの作成を実施した。 ④-4 12/3 学校保健委員会を開催した。学校医2名、学校歯科医3名、学校薬剤師1名、PTA家庭教育研修部6名の参加を得て、生徒の健康保持増進のための取組について協議した。睡眠時間や運動時間を増やすように健康教育を行うことやスマートフォン利用、感染症対策について指導助言を得た。	所見 特に、改修工事後の南館をきれいに保てるよう、拭き掃除の機会を増やすなど、工夫しながら校内美化に取り組んだ。地域の清掃活動や学校祭の防災展等を通じて、生徒が地域とつながることができた。また、合同避難訓練の際には、相手のことを考えながら行動する姿勢が見られた。緊急時の対応に関する教職員研修をシミュレーション訓練にしたことで、教員が感じる不安や疑問が挙がりやすく、準備しておくべき課題が明確になった。教員の意識も深まってきた。	学校関係者の意見 すべての評価指標において、目標を達成しており、組織的に実践できていると感じた。校内外の環境美化など清掃活動への積極的な取組ができている。清掃活動や合同避難訓練等を通じて、地域とのつながりや衛生・美化・防災意識の高揚が図られている。地域の様子を知り活動に熱が入ることが期待する。様々な詐欺や闇バイトの被害者にも加害者にも陥らないように、消費者教育を通して、防衛知識を持ってもらいたい。	①-1 ①-2 ①-3 継続して実施する。 ②-1 地域清掃活動の実施時期を見直しながら継続する。 ②-2 継続して実施する。 ③-1 ③-2 継続して実施する。 ④-1 継続して実施する。 ④-2 ④-3 ④-4 厚生委員会活動や保健だよりを通して、外部講師や学校医、学校歯科医、学校薬剤師等の専門家と連携し、生活習慣改善に向けた取組を充実させる。		
	②-1 地域清掃活動の充実によるとくしまGXスクールの推進(競・駐) ②-2 教科間の連携による消費者教育(競・駐)	②-1 5/22、10/6、12/11に地域の清掃活動を実施した。各回、美化委員、環境委員の他、個人または部活動単位で多くの生徒が参加した。 ②-2 消費者教育として、7/16に3年生が、徳島大正銀行の斉田友明氏による金融教育講座を受講した。闇バイトや銀行口座売買に関する犯罪についての話を聞き、金融に関する正しい知識を学んだ。エシカル消費教育では、1年生が身近な材料を用いて「阿波高オリジナル携帯myトイレ」を作成し、家庭用に持ち帰ったほか、学校祭の防災展で来校者に配布し、地域の防災啓発につなげた。					
	③-1 学校防災計画の作成と職員への周知(競・駐) ③-2 防災避難訓練等の効果的な実施(競・駐)	③-1 学校防災計画を作成し、職員に周知した。 ③-2 5/11に、吉野地区の浸水被害を想定して、かきはら子ども園、柿原小学校との合同避難訓練を実施した。高校防災士と環境委員が園児や児童の迎えと広場への誘導を行い、3年生が校内への避難に付き添った。有事の避難行動への意識と実践力を高めることができた。					
	④-1 緊急時の対応に関する教職員研修の実施(競・駐) ④-2 厚生委員会活動の活性化(競・駐) ④-3 関係機関と連携した健康教育の実施(競・駐) ④-4 学校保健委員会の充実と結果の活用(競・駐)	④-1 5/16に教職員対象の緊急時対応訓練を実施した。生徒が教室で倒れた場面を設定し、役割に応じたシミュレーション訓練を行い、徳島中央広域連合中消防署員から指導助言を得た。 ④-2 厚生委員は毎月1回、保健だよりを教室に掲示する際にHRで内容の説明を行った。夏休み前には「わたしが作る朝ごはん」のメニューを考え掲示物を作成し、阿波高祭の保健展で展示した。また、厚生委員2名を含む生徒有志が熱中症予防の啓発動画を作成し、一学期の終業式後に全校生徒に向けて上映した。 ④-3 12/11に「徳島県外部講師を活用したがん教育事業」を行った。むつみホスピタル副院長・看護部長 郡利江氏による「生活習慣病とがん」、AWAがん対策基金理事 川崎陽二氏による「がん体験から伝えたいこと」、徳島大学医学部学生 藤本和真氏、石田祐也氏による「がんについてもうちょっと知ろう」と題した講義と、がん検診を勧めるメッセージカードの作成を実施した。 ④-4 12/3 学校保健委員会を開催した。学校医2名、学校歯科医3名、学校薬剤師1名、PTA家庭教育研修部6名の参加を得て、生徒の健康保持増進のための取組について協議した。睡眠時間や運動時間を増やすように健康教育を行うことやスマートフォン利用、感染症対策について指導助言を得た。					

*「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点課題 7

「開かれた学校づくりの推進」

*「評価指標」の()内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		評価		学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル) 積極的に情報発信を行うと共に地域と密接に連携を図りながら魅力的な学校づくりを推進する。	評価指標 ①阿波高校への満足度 90%以上 (90%以上→生徒91.8%、保護者92.9%) ②本校Webサイト更新回数 年間80回以上 (年間70回以上→123回) ③学校説明等訪問中学校 10校以上 (10校以上目標→9校)	評価指標による達成度 ①阿波高校に入学して(させて)良かったと「思う」と「やや思う」の合計 生徒 92.1%、保護者 94.9% ②本校Webサイト更新回数 年間157回(1月23日現在) ③学校説明等訪問中学校 8校	評定 A A B	総合評価 評定 A	総合評価(評定) A	
(下位組織レベル) ①魅力ある学校づくり ②積極的な情報発信 ③広報活動の充実	活動計画 ①-1 学校教育活動全般及び部活動の充実(類) ①-2 学校運営協議会による魅力化の推進(類) ② 本校Webサイトの充実(類・数値) ③-1 中学校での学校説明会の実施(数値) ③-2 学校公開(授業等)の実施(数値)	活動計画の実施状況 ①-1 9月まで体育館が使用できないという制約がある中で、阿波高祭や球技大会等の学校行事を、工夫しながら例年と同等の充実度で実施することができた。また、体育及び体育館を使用する部活動は、阿波市や吉野川市の協力を得て授業や練習場所を確保することができた。来年度は体育館と柔道場にエアコンが設置される予定であり、教育活動をさらに活発化させていきたい。 ①-2 学校運営協議会で学校運営方針等について承認を得るとともに、委員の方に核となつていただき、阿波市・上板町、地域の方々との連携を深めた。特に総合的な探究の時間における活動については、多大なる支援や助言をいただいた。ステージアップを目指し、さらなる魅力的な学校づくりを推進していきたい。 ② トップページのデザインを一新し、これまでよりも見やすく、わかりやすいデザインにした。閲覧者が見たい・知りたいと思われる情報をページ上部に配置することで、閲覧者のストレスを軽減することに努めた。また、部活動の結果や学校行事等を積極的にアップすることを全教員に周知することで、サイトの更新回数が大幅に増加することとなった。頻繁な更新により、学校内外の活動を広く知ってもらうことができた。 ③-1 依頼のあった8中学校(山川中学校、土成中学校からは依頼がなかった。)の進学説明会に校長と教務主任が出向き、本校教育の概要等を説明した。 ③-2 8月の中学校体験入学には282名の申し込みがあり、授業体験および部活動体験を実施した。また、11月の学校公開には中学生とその保護者、在校生の保護者計44名が来校し、授業や施設の見学を行った。	所見 学校評価アンケートにおける阿波高校への満足度が、生徒・保護者ともに数値が上昇した。今年度の本校の教育活動が生徒・保護者ともに認められたものだと捉えている。総合的な探究の時間においては、地元企業や学校、施設の協力を得ながら取り組む活動が増加してきており、新聞やHPによる発信を強化することで、活動の認知度を上げていく必要があると感じた。 ③-1 学校説明等で訪問できなかった中学校数は目標未達であり、対外的な広報・募集の導線には改善の余地がある。 ③-2 体験入学に参加して、阿波高校に行きたいと思う生徒が毎年多くいる。また、進学説明会でも熱心にご説明いただいていることが高評価につながっていると思う。	学校関係者の意見 ①② 阿波高校への満足度が生徒・保護者ともに上昇しており、魅力ある学校づくりが高く評価できる。またHPトップページを一新し見やすく分かりやすくするなど、積極的な情報発信にも取り組まれている。体育館利用制約など条件が厳しい中でも、学校行事の充実を工夫で担保し、自治体等の協力で教育活動を維持した点は、組織としての対応力を示している。学校運営協議会としても地域連携の核となり得たことが記されており、「総合的な探究」等の魅力を、中学校・地域・保護者に「伝わる形」で体系的に発信すること(訪問先拡大、発信内容のストーリー化、更新の継続)が重要である。 ③-1 学校説明等で訪問できなかった中学校数は目標未達であり、対外的な広報・募集の導線には改善の余地がある。 ③-2 体験入学に参加して、阿波高校に行きたいと思う生徒が毎年多くいる。また、進学説明会でも熱心にご説明いただいていることが高評価につながっていると思う。	①体育館空調工事が7月下旬までであるが、以降は通常どおり学校施設が使用できるため、これまで以上に学校教育活動を推進して行く。 ②ホームページの情報が独りよがりになることなく、閲覧者が知りたい情報を、できるだけ素早く的確に提供できるようにする。 ③-1 進学説明会で「総合的な探究の時間」をはじめとする阿波高校生の幅広い取組を紹介し、学校の魅力をアピールしていく。進学説明会を開催しない中学校には、個別訪問などのアプローチを行う。 ③-2 中学校体験入学の実施時期を8月上旬の平日から10月中旬頃の休日に変更し、熱中症のリスクを回避する。	

*「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった